

オードリー・スミス入学関連副学長へのインタビュー —スミス・カレッジの学生募集戦略に関する聞き取り調査—

An Interview on Smith College's Student Recruitment Strategy with Ms. Audrey Smith

オードリー・スミス* ・ 安東 由則**

SMITH, Audrey & ANDO, Yoshinori

目次

1. スミス・カレッジの学生募集
2. 応募学生の選択基準
3. スミスのセールスポイント
4. 女子大学の利点は何か
5. 寄付金集めとその用途
6. 科学教育の重視
7. 留学生の受け入れ

* Vice President for Enrollment at Smith College

** 武庫川女子大学文学部教育学科・教授／教育研究所・研究員

1. スミス・カレッジの学生募集

安東 まず、スミス・カレッジが学生募集をどのように行っているかについてお尋ねします。スミス・カレッジは、アメリカで大変有名でよく知られた大学ですが、ここボストンの周りには素晴らしい、有名な大学がたくさんあります。そうした中で、才能があり、優秀な女子学生をスミス・カレッジにどうやって勧誘するのでしょうか？

Smith アメリカでは、女子大学はあまり一般的ではなく有名度も低いので、やや難しい面があります。男子大学、女子大学、共学の大学がそれぞれ併置していた歴史がありますが、最も有名なトップの大学は、学生が全員男子か、あるいは全員女子かのいずれかでした。60年代後半くらいまでは、人々の口コミを通しての評判、高校の校長からの紹介、あるいは大学の歴史などによって学生が集まって来ました。その後、70年代初期になると、大学入学者が増え、アメリカ社会が変化するに伴ない、女子大学はもっと積極的に学生勧誘を行わなければならなくなりました。というのは、最も有名な男子大学は70年代初期から1982年までに共学となり¹、70年代後半には私たちの大学（女子大学）が学生を勧誘することは次第に難しくなっていました。

私たちは、生徒へのダイレクト・メールも含め、様々なリクルート活動を行っています。アメリカでは、SAT や ACT の試験を受けた学生の名前を買うことができ、本学（スミス・カレッジ）に見合う点数を取っている学生に対して案内を送付しています。私たちは、アメリカだけでなく世界中にある中等学校を訪問するためのしっかりとスケジュールを組んでおり、1年で550校から700校の高校を、主として秋に、職員が訪問しています。春に訪問することもあります。大学を選ぶ時期が徐々に早くなっているため秋にしています。従来は、最終学年の秋までそれほど考えなくてよかったものが、最終学年の1年前の学年で考え始めるようになってきたため、高校生へのリクルートの過程が、より長い期間にわたるようになっています。

安東 60年代後半からはじまっているのですか？

Smith そうです。60年代後半から現在までですが、実際にはここ10年のことです。ますます多くの中等学校²の生徒、私たちがジュニア（Junior）と呼んでいる11年生（11th grade：日本の高校2年）、つまり最終学年（Senior）の1年前からどの大学にいくかを考え始めています。アメリカの高等学校は、一般的には9年生（9th grade）から12年生（12th grade）まであり、大学について考え始めるのは、以前は12年生

¹ Yale と Princeton は 1969 年、Brown 1971 年、Ivy League で最後に共学化したのは Columbia で、1983 年のことであった。Harvard の場合、Radcliffe との関係で共学年の特定は難しいが、1977 年には合意が結ばれ共学化したとしてよい。（<https://handbook.fas.harvard.edu/book/brief-history-harvard-college>）（<https://www.radcliffe.harvard.edu/schlesinger-library/exhibition/its-complicated-375-years-women-harvard>）

² Secondary School との発言であるが、ここでは日本に合わせて高等学校と訳しておく。

※ネット資料は2018年2月27・28日に全て再確認（以下、同様）。

になってからでした。でも今は、笑い話として言っているのですが、生徒も親も、生徒が生まれる前、胎内にいるときから考え始めていると。実際、生徒たちは、中等学校のジュニア (Junior)、つまり 11 年生で、大学について真剣に考えます。中等学校では 9 年生から 12 年生まで 4 年間ありますが、本学 (スミス・カレッジ) のような大学に入るには、中等学校での履修課程、つまりどのような科目の授業を取るかが非常に重要です。中等学校として非常にしっかりした履修課程を持っている必要があります。

このように私どもは、中等学校を訪問したり、学生の名簿を買ったりします。また、ボランティアとして働いてもらえるスミスの卒業生が非常にたくさんいてくれます。スミスの卒業生は世界全体にいますが、特にアメリカでは、スミス・カレッジのスタッフが行けない場所にある高等学校で行う大学進学説明会に、スミス・カレッジを代表して行ってくれています。このように、地域社会に浸透している幅広い学生リクルートのプログラムがあるのです。

さらに、このキャンパスでもそうしたプログラムを実施しています。高校生はこのように早い段階から始めているので、夏に行うプログラムを 7、8 年前に始めました。最初は生徒たちがキャンパスに来られるよう 8 月に実施し、キャンパスを見てもらうようにしました。さらに、希望する全ての生徒がスミス・カレッジを訪れることができるよう、10 月と 11 月にも特別なプログラムを用意して実施いたしました。

スミスカレッジの卒業生のためだけに行われるプログラムもあります。このプログラムでは、自分の娘や姪、孫娘を連れて来ることができ、彼女たちに選考のプロセスや大学そのものを紹介します。このプログラムは、非常に効果的です。

また、私たちはキャンパスに来てもらう高等学校のアドバイザー向けプログラムも提供しています。アメリカにおける最新のアウトリーチ (援助・支援) の取り組みのひとつは、あらゆる面で恵まれた学生だけでなく、とても頭が良く、聡明であるにもかかわらず社会的に恵まれない学生にも入学してもらおうとしていることです。こうした学生を支援する機関がアメリカにはたくさんあります。学科課程や大学への進学相談が行われず、大学へ進む生徒が多くない、資源の乏しい中等学校 (under-resourced secondary school) と呼ばれるような学校においては、優秀な生徒に対する支援がほとんどありません。アメリカのほとんどの大都市では、こうした子どもたちを援助する機関が誕生しており、よい仕事を行っています。特に、ニューヨーク、ボストン、ロサンゼルス、サンフランシスコ、シカゴ、ヒューストンにあるこうした機関の多くとスミスカレッジは提携を結びました。ミネソタ州のセントポールにも提携している機関がありますし、ニュージャージーの北部にもそうした機関があります。このような学生のための全米規模の組織もいくつかあります³。ですから私たち

は、外に出て高校を訪問する際には、こうした機関の人たちとも会います。最近では、そうした機関のカウンセラーにもキャンパスに来て見てもらい、学生と会って、私たちがどんな支援を行っているかを知ってもらうようにしています。

安東 スミスに学生を紹介するニューヨーク、ボストン、ヒューストンにある機関は民間の機関ですか？

Smith はい、私たちが地域基盤組織（community-based organization）と呼んでいる機関です。私たちは、非常に能力が高くお金がたくさんある豊かな学生と仕事をする民間のカウンセラーと提携しており、それがこの地域基盤の機関と異なる点です。非常にお金が乏しい学生のためのこうした機関は、教育基金によって始められることが多く、まさに民間のお金を受け取るわけです。教会や宗教的な組織をベースにしたものもありますが、多くは民間の基金です。

安東 たとえば、ハーバードは各州、各大都市に卒業生がおり、そうした卒業生が応募者を面接しており、このことはよく知られています。スミスも同様に卒業生が入学志願者に対して面接を行うといった仕組みはありますか？

Smith はい。アメリカだけでなく、海外でも行っています。日本でも行っていますが、中国や韓国の方がもっと多いです。ソウルにも多く卒業生がおり、同窓生の会もあります。日本には東京と京都にだけ面接する人がいると思います。他の地域に日本人の志願者がいる場合、スカイプで面接をすることもできます。面接は主に応募者に大学に関する情報を与えるためのものです。卒業生による面接は、正式な面接ではありません。英会話への準備、授業へ参加するための準備という点で、卒業生は私たちの大きな助けとなってくれています。

安東 では、卒業生との面接は大学にとって非常に重要な情報ですか、それとも合否にそれほど重要ではないのでしょうか。

Smith 私たちにとってというより、志願者にとって重要だと思います。いろいろな面接がありますので、その全てについて知っているわけではありません。職員による面接では、職員が出張し、その学生を非常によいと思えば、それは合否判断の助けになります。職員でない同窓生がその学生をよいと思う場合、出願書類の全てを見るわけではなく、学生の詳細を十分に理解していない懸念はありますが、スミスに抵抗なく来る気持ちに志願者をさせてくれます。特に、カリフォルニアや東京、アラバマの小さな町では、スミスがどんな大学なのかを知ってもらうことが必要だと思います。

安東 応募者を面接する卒業生が何人くらいおられますか？

³ 沢山あるが、George Lucas Educational Foundation による edutopia はそうした機関の一つである。
(<https://www.edutopia.org/about>)。CMEF (Corps Member Educational Foundation) は、TFA (Teach For America) と組んだ教育援助組織である (<https://www.cmef.org/>)

Smith 500人以上です。主にアメリカ国内ですが、世界中にいます。卒業生には（面接者になるための）トレーニングのプログラムがあり、それを統括する職員が1人います。この地域的なプログラムの役員会有り、12人の役員がいます。そのうち10人はアメリカ地区におり、他はアジアとヨーロッパ地区に1人ずついます。

安東 女子大学ですが、男性による面接もありますか？

Smith いいえ。これは卒業生だけの話ですので。男性の場合は職員になります。スミスに少なくとも17年間おりますが、男性が面接者に入ったことはありません。過去には男性が職員にいたことはあると思います。

2. 応募学生の選択基準

安東 スミスへの応募者は非常に優秀で素晴らしい学生だと思いますが、選ばなければなりません。選ぶ基準は何でしょうか？どんな学生を選びますか？

Smith ちょうど来年（2017年9月入学）の選考の最中で、高等学校の成績表を見ているところです。アメリカにおける他のリベラルアーツ・カレッジ（Liberal Arts College）と同様に、アメリカ以外の国の人たちが理解できない個人的なエッセイ（小論文）もあります。アメリカでの願書の提出方式についてはご存知ですか？

安東 ある程度知っていますが、それほど詳しくは、知りません。

Smith そうですか。米国の大学への願書の提出する方法は世界の他の国々とは非常に異なっています。

他の国々では、試験に非常に比重を置いていますね（test-driven）。

安東 はい、日本は非常に試験を重視します。

Smith そうですね。アメリカでは試験も行いはしますが、もっと重要なのは個人的特性（a set of personal attributes）です。スミスのようなリベラルアーツ・カレッジや共学大学においても、クラスでの授業のみならず、キャンパスのある地域社会での暮らし・生き方もまた、大学教育の使命だと考えております。ですから、一般の学術的科目のみならず、芸術活動や運動競技や、将来のビジネスリーダーとなるためのリーダーシップを育むことにも価値を置いています。学生のコース分け（selecting the class）を行う際にも、こうした特性は重要であるとアメリカの大学では考えます。

また、優秀な試験結果や高校の教科課程における成績に加え、指導者（リーダー）を育成するための活動も重要な要素です。他の国々における大学への入学者選考過程では、地域社会に対するサービス、運動競技や芸術的な実績などは、アメリカのように重要視されてはいません。志願者の出願書類ファイルを誰かが見る場合、志願者について抱括的な観点から、できるだけ多くの面を見ようとするのです。このあたりが、他の国々と異なっている点です。

他の国々と異なるアメリカの大学が抱える問題は、成績のインフレ（成績のかさ上げ）と言われています。大学の合否判定において、高校の成績証明書で学生を評価したり、高校の教員が学生のために推薦状を書いたりすることが、アメリカでは過剰に行われています。例えば推薦状には、“Fabulous”や“Best”といった言葉がよく使われています。

ヨーロッパの大学からスミスに働きに来ることになった人を雇う際、私が彼女を面接しましたところ、とてもよい印象で、非常に優秀な人だと思いました。さらにベルギーのブリュッセルにいる彼女の推薦者と電話面接した際には、その推薦者は「彼女は大丈夫です」とだけ言いました。アメリカの感覚からすれば“何かへんだな”と感じましたが、それは文化的な違いによるものなのです。その後、彼女のアメリカ人の友人たちとも話しましたが、その時彼らが言うには、アメリカのやり方の問題点は、アメリカではどんな候補者もが強く推薦されるので、そこから少し抜け出さなければならぬことではないかと述べていました。そのレベルがどのようなものであれ、どうやって抜け出すかを人々はみな学ぶのですが、現在のアメリカでは、こうした文化が学生に過剰なプレッシャーをかけているという懸念があります。同じように、日本の社会では一所懸命やるということが大切だというプレッシャーがあるので、学生にもプレッシャーがかかり、学生の健康状態について考慮しなければならないということを知っています。

安東 なるほど、日本では入学試験へのプレッシャーが強いですね。

では、面接において面接者たちの意見が異なる場合があると思います。こうした難しい状況ではどのように選ぶのでしょうか？ある人はAさんを推薦し、他の人はBさんを推す場合、どのような基準で選ぶのでしょうか？

Smith 私たちのやり方は、願書には各人が様々な資料を付ける必要があります。書類や願書には選択の基準が書かれており、各願書を2人の職員が読み込みます。なぜこうするかと言いますと、試験の点数だけでなく個人的な特性を評価する場合、人によって多少の偏りが生じます。例えば、スタッフによっては数学ができる人が好きな者もいれば、運動ができる人を好きな者がいるかもしれません。このため、2人でそれぞれに願書を読んでもらい、願書に対する評点を付けてもらいます。全ての願書に評点が付けられた後、5,500人の志願者の中から1,800人の生徒に入学許可を出す見込みです。現時点では、約600人の生徒に入学してもらう予定です。一般的には、入学するのは入学許可を出した者のうち3分の1程度ですので。つまり、志願者の3分の1しか入学許可をもらえず、入学を許可されたもののうち実際に入学するのはさらにその3分の1ということになります。このようにアメリカでは、地理や人種を含め、様々なことを考慮しなければならないのです。さらに、将来、志願者が指導

的立場になれる可能性も見ます。

スミスは工学プログラム (Engineering Program)⁴を開設していますが、これをもつ女子大学は他にありません。工学プログラムに応募する学生については、それに見合った数学の学修経歴があるかを確認します。他にも、私たちは芸術的才能や運動の才能にも非常に関心をもっています。もうひとつ高い関心をもっているのは、卒業生の娘や孫娘さんたちです。他の評価ポイントが全て等しい場合、こうしたグループの学生は他の学生より有利になる可能性があります。志願者が技術系の場合や、芸術系の場合、または一般的でない経歴をもつ有色人種のマイノリティの学生である場合もです。ただ、結論としては、スミスカレッジに入学するための学力等の基準に見合う必要があります。5,400人の志願者のうち、入学の基準に見合うのは4,500人くらいだと思いますが、そのうち1,800人しか入学許可を得ることはできません。実際、ここが難しい点で、今、その過程にあって取り組んでいるところです。

安東 では、選考と入学許可の判定は、12月のクリスマス休暇前にまで行うのですか？

Smith 3月に協議して学生たちに知らせ、学生は新たな学年暦が始まる9月に来るのかどうかを、5月に知らせてきます。

入学が決定するのは、高等学校を無事に卒業することができるか否かによります。学生は5月か6月に高等学校を卒業します。毎年、高校を終えることができなくて残念ながら入学できない生徒が1名ほどいます。また、病気になってしまう生徒もいますが、そういう生徒には、健康が回復すれば、来年きてくださいと言っています。

安東 学生を選ぶ場合、エスニシティ (ethnicity) については考慮しますか？

Smith 考慮しますが、表だってというものではありません。他の条件全てが同じ場合、多様なキャンパス・コミュニティを維持したいと思っていますので、その点 (ethnicity) についても選考過程で配慮するようにしています。

こうした要因に関わらず、最優秀の学生には入学許可が提示されるのです。次の段階に進むと、母親や祖母がスミスの卒業生というレガシー (Legacy⁵) や、民族、運動神経、音楽、芸術、スミス・カレッジで両親が働いているかなど、あらゆることを考慮します。

安東 レガシー (Legacy) による入学許可は、スミスにとって役に立ちますか？

Smith ええ、そうですね。しかし、スミスカレッジは共学大学と比べた場合、対象になるのは娘さんに限られますので、その人数というのはごく小さなものにすぎません。

⁴1999年、スミスは大きな挑戦として、それまで他の女子大学にはなかったエンジニアリングの専攻 (Smith's Picker Program in Engineering and Technology) を開設し、2004年に19名の卒業生を送り出した。(https://www.smith.edu/newsoffice/releases/00-086.html) (https://www.smith.edu/engin/)

⁵卒業生の子孫や親族に対する優先入学制度のこと。

私の場合は、息子が3人で、特別な考慮など皆無ですので、誰もスミスに入ることはできないと笑って笑話にしています。

3. スミスのセールスポイント (selling-point)

安東 あなたがスミス・カレッジで最も推奨する点、セールス・ポイント (selling point) は何でしょうか？

• Ageless Women's Network

Smith いくつかあります。ひとつは、今見ることは難しいですが⁶、綺麗なキャンパスです。美しいキャンパス内に住んで学ぶことは、素晴らしいことです。学生に対して惜しみなく力を注ぐ素晴らしい教授陣もいます。志願者を面接した卒業生が500人いると言いましたが、世界には4万人の卒業生がおり、スミスに対して非常に強い愛校心をもっています。ところで“OB (Old Boys)” ネットワークについてはご存知ですか？男性の話のようですが。

私たちはそれを“エイジレス女性ネットワーク (Ageless Women's Network)”と呼んでいます。私たちの卒業生たちは、(学生や新卒業生たちが) 外国に赴いたり、アメリカの新たな都市へ移動したりした時など、学生の面倒を見てくれます。仕事や住むところを見つけてくれたり、様々な人々に会ったりと社会的な面での手助けをしてくれています。学生は卒業すれば直ちにこのスミスのネットワークに入るのです。これはとてつもなく大きな利点であり、学生が仕事を得るといったような個人的な意味でも、職業的な意味でも、学生の助けになってくれています。こうした点はスミスの大きなセールス・ポイントです。



写真 College Hall (March 15, 2017)

• Housing System

Smith 他のリベラルアーツ・カレッジとは異なる、スミス独自の興味深いセールス・ポ

⁶インタビュー前日、季節外れの激しいブリザードのため、大学は休校となり閉鎖された。よって、インタビュー当日のキャンパスは一面、深い雪に覆われてしまっていた。

イントとしてはもうひとつあります。それは、住むところです。キャンパス内に住む Housing System⁷を取っている点が、他の大学とは異なります。キャンパスツアーの際に見ることができるのですが、スミスには多くの House があり、一つひとつは小さなものですが、学生がそこで優雅に暮らすことができ、学生たちはそれを感謝してくれています。今のような時代では、学生の多くは都市の学校へ行きたがりますが、ここ（Northampton）は（地方の小都市ですが）素敵な街です。学生は街へ歩いて行くことができ、その街は安全で、学生が勉強し、住み、働く環境としては、とてもとても快適であり、学生はそれを謳歌しています。

安東 学生は House か寮（Dormitory）に住むことになっているのですか？

Smith そうです。寮はありませんので、House に住みます。

安東 どのくらいの期間、住むことになっていますか。2年くらいでしょうか？

Smith 通常は4年間ずっとです。学生の半数がジュニア（Junior：3年生）の時に外国に行きます。1年や1学期といったように期間は限定されていませんが、外国に行きますので、キャンパスには3年か3年半暮らします。キャンパスの外に住んでいるのはごく少数です。繰り返しますが、この地域では、キャンパス内での住居の質は良いので、キャンパス外での住居費は高くつくことになります。そうでなければ、もっと多くの学生がキャンパス外に住んでいるかもしれません。

安東 では、4年で学生は House を変わるということもあるのですか？

Smith 半数は同じ家にとどまり、半数は変わります。学生は House を選ぶことができます。House は社会的環境の一部であり、学生にとって House は非常に重要なものであり、House に対して愛着をもっています。

4. 女子大学の利点は何か

安東 次の質問は最もお聞きしたかった質問で、女子大学についてです。女子大学としての利点は何でしょうか？スミス・カレッジをアピールする際、女子大学であることをどのようにアピールされていますか？

Smith 利点についてはお話しますが、先ほどの質問に戻って言えば、スミスを女子大学として押し出すかどうかという点について言えば、「ノー」です。これは他の女子大学にも同様に当てはまることです。17才の学生に女子大学に行きたいかと聞けば、答えは決まっています。

安東 “ノー”ですね。

⁷スミスは伝統的に大きな学生寮をもたず、この代わりに小規模な35の House と Complex がある。地域との垣根のない小規模な House に住むというシステムはスミス独自のものである。(https://www.smith.edu/reslife/houses.php)

Smith この大学では、女子大学を前面に押し出すことはありません。

私たちは市場調査を行い、スミスカレッジに志願したり入学したりする学生は、女子大学に来るつもりはなかったが、キャンパスが綺麗で、教授陣も気に入ったので来たと言っていることを理解しています。つまり、言いたいことは、学生は“女子大学であるにも関わらず”スミスに来たということなのです（下線：安東）。彼女たちが卒業する頃には、スミスの一番好きな部分は、“女子大学”であるということになっています。マーケティングの観点からは難しい点なのですが、私が17才の生徒たちに言えることは、“私を信じてください、あなたが年齢を重ねるにつれ、女子大学に行ったことに感謝するようになるでしょう”ということです。私たちは、生徒たちへの宣伝活動において、優れたリベラルアーツ・カレッジであり、教員との緊密な関係、美しいキャンパス、このような素晴らしい環境で授業が受けられることなどをアピールするわけです。私たちの大学のHouseがよい点は、若い女性が親身になって世話をしてくれるからです。これは、3人の息子をもつ母親として言えることです。女性はHouseに住むことを喜んでくれるということが、質問にある女子大学の大きな長所につながり、学生たちが後になって女子大学へ行ったことを感謝するようになることにつながるわけです。

学生にスミス・カレッジへの志願を考慮してもらおうという観点から言えば、「灯りをブッシュェル籠で覆う（a bushel basket over the light）」（才能を隠す／余りハッキリとは言わない）といった表現を使います。女子大学であることはスミスのもつ偉大なことのひとつであり、私自身はそれを宝物にしているのですが、入学希望の学生に話をする場合、注意する必要があります。なぜ、このことが重要なのかというと、いくつかの理由があります。日本の社会でもそうだと思いますが、アメリカ社会でも、女性が指導的立場に立つ可能性についてはまだ遠い道のりがあります。特に、企業ではそうです。政治的部門では徐々に近づいていますが、まだ最後までは行っていません。でも近くはなっています。

安東 ウェルズリー（Wellesley College）出身のヒラリー・クリントン（Hillary Rodham Clinton）は民主党の大統領候補になりましたが残念でした。

Smith そうですね。ですが、女性の指導的立場からいうと、ウェルズリーのほんの一部の人々のことです。あの大学は、自然科学に関心がある学生には特によい大学です。自然科学は女性が一番少数な分野で、スミスでは現在は、3分の1の学生が科学を勉強しています。

安東 3分の1ですか。

Smith そうです。自然科学分野全般において教員の半分が女性ですので、そこにはロールモデルがいるわけであり、素晴らしいことです。女子大学は非常に成功している女

性科学者を生み出しており、それは重要なことです。

もうひとつ、低所得の経歴があってスミスに来た学生にとっては、この大学がもつ文化は特によいと思います。多様な学生の集団であることを含めて、女性は受容度が高く、これは非常に重要なことです。スミスの教員たちもこの点について特別な配慮を払っていますし、これは非常によい点です。繰り返しますが、女性には他の女性を助けるという女性ネットワークのようなものがあります。ウェルズリーのもう一人の著名な卒業生、マデレーン・K・オルブライト (Madeleine Korbel Albright) は、“他の女性を助けない女性には地獄に特別な場所がある”と言いました。この女性ネットワーク、つまりスミスの先輩の女性たちが、最近卒業した女性たちの成功に力を注いでいるのです。最近の職探しの難しさを考えると、こうしたネットワークの価値は非常に貴重です。実際、ネットワークというのは、在学中のキャンパスでの経験とその後の経験を組み合わせさせたもの (combination) なのです。

安東 普通の女子大学は非常に厳しい、難しい状況下にあります。ですが、ウェルズリーとスミスは、様々な面で、有利な点をもっていると思います。それでも、学生をリクルートする場合に女子大学ということは強調しないわけですね？

Smith そうです。(提出した) 質問リストの最後の質問ですが、ボランティアをしてくれる卒業生が女子大学は素晴らしいといつも言っており、私たちもそう言っています。その点は、興味深いことです。卒業した後、そのことに気づくのだと思います。そちらの大学の学生も同じような経験をしますか？

安東 はい、同じようです。学生によっては、女子大学に入るのは、女性ばかりの集団の中で、うまくやっていけるかどうか分からず、怖いという学生もいますが、入って勉強をし出すと、大学生活を楽しんでいます。

Smith そうですね。私も同じように思います。スミスに学生たちが来ると、優れた教育を受けられることは素晴らしいということが分かります。次に学生が持つ大きな疑問は、うまく心地よく大学に溶け込めるか、夫を見つけることができるか、社会生活ができるかなどで、私たちは常にそうしたことについて話しています。

学生のリクルートの話に戻りますと、ウェルズリー (Wellesley)、マウント・ホリヨーク (Mount Holyoke)、バーナード (Barnard)、ブリンマー (Bryn Mawr)⁸と一緒に学生のリクルートを行います。そうすれば一緒になって女子大学について話すことができます。それだけ大きな聴衆がいるからです。ですから、学生を獲得する上では競争をしていますが、一緒に活動をすることが多いのです。

⁸ Smith を含む 7 大学のうち 5 つの女子大学は、かつて “Seven Sisters” と呼ばれた伝統と威信のある北東部の女子大学である。Vassar が共学化し、Radcliffe が Harvard に統合されたので、現在は 5 大学となっている。

安東 WCC (Women's College Coalition)⁹とは別に、この5大学が集まり、会議や学生のリクルート活動を行っているのですね。女子大学連合(WCC)は学生を勧誘するのに有効ですか？

Smith ウェルズリー、マウント・ホリヨーク、バーナード、プリンマーとスミスと一緒にそうした活動を行う理由で、私が知っていることをお話します。大学には様々なものがあり、女子大連合の女子大学が引き寄せるのは、当該地域の学生かスミスやウェルズリーでは学業的にうまくいかない学生だけです。女子大連合には支援を惜しみませんし、女子大連合の仕事にも関わり、それを支援しています。しかし、学生の入学許可という点では、女子大連合といっしょにリクルートするということはおかしなことですね。というのは、スミスが入学許可を出さない学生をリクルートすることであり、それは倫理に反すると感じるからです。一方で、女子大学のよいところを宣伝する上では非常に密接に連携をとり、一緒に活動をしています。

全米大学入学者選抜会議(National College Admission Conference)¹⁰であった入学者選抜のミーティングに参加しましたが、学生のリクルートの点からいうと、私たちと同じような入学基準を持つ学校といっしょに行う必要があります。ですが、女子大連合のホームページにある資料は素晴らしく、そうした内容を支援しています。

安東 ウェルズリーなども支援していますね。

Smith そうです。私たちのようにこうした組織の中で最も知られた主導的な大学が支援するということは本当に重要です。スミスが支援して、スミスというブランドがもつ強みを女子連合に提供しています。私たちはそのことに価値を認めていますし、女子連合も私たちが参加することに価値を認めていると思います。

5. 寄付金集めとその使途

安東 分かりました。次に、寄付などの資金集めについてお尋ねします。スミスカレッジでは“Women for the World”というキャンペーンを行われていて、HPによると、5億ドルに近い基金を集めておられますが。

Smith そうですね、4億7千万ドル¹¹です。

安東 その金額に非常に驚かされました。こうした寄付金は主に奨学金として使われるの

⁹全米の女子大学連合である。この連合も年に1度集会を定期的で開催して、共同での調査を行ったり、女子大学の魅力を伝える活動を行っている。(http://www.womenscolleges.org/)

¹⁰インタビューではNational Admission Conferenceとの発言であったが、確認したところ、そのような名称の会議は存在しないようなので、National College Admissions Conferencesのことだと思われる。この会議のcollege partnerには、Yale、Princeton、Amherst、Vassar、Wellesley、Williamsなどの全米でも非常に高いランキングの大学が名を連ねている。(https://www.questbridge.org/high-school-students/college-prep-scholars/conferences)

ですか。

Smith その通りです。集められた寄付金は、私たちが世代間の公正と呼んでいる形で使われます。寄付額の約 4.5% を毎年取り、運営予算に入れます。これを毎年行うことで寄付金は同じ額で残り続ける上、予算にも貢献すると考えています。“Women for the World” はその資金を集めるための活動の名称です。この活動はちょうど終了したばかりなので、ホームページのあちこちに掲載されていますが、4 億 7 千万ドル集めるのに 7 年かかったんです。この活動がなくても、7 年で 3 億 5 千万ドルは集められたでしょうが、1 億ドル以上を余分に集めたわけです。寄付して頂く方の意欲を湧き起こさせる方法のひとつとも言えます。集めたお金は、教員や学生奨学金への支援といったことなどに使われます。素晴らしい活動で、キャンパスのあちこちでポスターが貼ってありますよ。

安東 寄付の一部は国外で学ぶ学生にも使われるのですか？

Smith 一部はそうですね。しかし、その多くは、直接、授業料の相殺（埋め合わせ）として使われます。学生への財政援助のほとんどはそうした資金から使われます。

安東 奨学金をもらう学生の割合はどの位ですか？

Smith およそ 60% です。小額の奨学金から全額支給のものまであります。私たちは、こうした形で様々な奨学金を出すことができます。

安東 日本では、なかなか寄付金を学生の奨学金に使うことはできません。

Smith そうですね。でも、日本では費用が私たちよりもかかりません。面白いですね。ある意味では授業料は累進課税のようで、かなりの費用を請求します。しかし、請求された全額を支払うのは、全学生の約 35% と少数なのです。

安東 寄付はアメリカの文化だと思います。

Smith そうですね。それもアメリカ的なことですね。

興味深いことは、外国からの学生が増えており、現在は約 15% が外国の学生です。その増加している留学生について聞かれることがあります。何と聞かれるかというと、優秀な外国からの留学生も、卒業後、スミスと同じように支援してくれるかということです。これは、またアメリカ文化の話になりますが、アメリカの税金政策がこうした傾向を促進することになっており、興味深いことです。

外国から来た卒業学生について、私たちが調べ始めているのですが、外国の卒業生が自国の税法から見て貢献できるやり方があると思います。これについては余り知ら

¹¹1 ドルを 100 円としても、日本円に換算すると 470 億円、110 円換算で 517 億円にもなる。平成 29 年度の芦屋市の一般会計予算（463 億円）と同規模である。
(http://www.city.ashiya.lg.jp/zaisei/h29_yosan.html#01)

ないのですが、（寄付をするかしないかに関する）ひとつの要因だと思います。

6. 科学教育の重視

安東 スミス・カレッジは、数学、科学を強調・重視しており、数学センター（Center of Mathematics）を設立しています。スミス・カレッジが数学センターを設立されたのはなぜでしょうか？専門職大学院への進学や医学部へ進むことを学生に推奨しているということに関係しますか。

Smith リベラルアーツ・カレッジとしては、文芸と科学に対して均等に重視をしたいと思っています。私たちの大学には7つ主要専攻分野として、文学、歴史、社会科学、自然科学、数学、芸術、外国語があり、そこからさらに分かれ50以上の専攻があり、美術館ももっています。私たちは、リベラルアーツ・カレッジとしてのスミスの伝統を非常に誇りに思っています。しかし、既に言いましたように、（自然）科学は女性がこれまでは余り成功してこなかった分野であり、これまで気づかれてこなかった可能性があると感じています。そして、スミスの学生が信じられないような成功を収めることで、それを実証してきました。

スミスが始めた工学プログラム（Engineering Program）は17年目になり、驚くべき成功を収めています。小規模のプログラムで多くの人の注目を集めるというのは意図したところですが、現在、その規模からして学生数が多く集まりすぎることが、一番の課題となっています。この大学は女性が科学を勉強するのにとてもよい場所であるという事実に鑑みて、自然科学を強調しているわけです。

他の大学についても同じことが言えると思いますが、私たちの大学が培ってきた優れた社会科学や人文科学から遠去かろうというわけではありません。一般には、社会科学や人文科学の分野において女性は成功すると考えられています。ですから、この事実をとりわけアメリカの外に広く理解されるようにしたいと思っています。

ところで、こうした様々なセンターが設立された理由ですが、私たちにお金を寄付してくれる人々がおり、その資金によってセンターの職員を雇うことができるわけです。通常、そうしたセンターは教授陣が主導して始まっており、Center for Community Service and Community Engagement（地域サービス・地域活動センター）と呼んでいるものもあります。その他、Center for the Environment, Ecological Design & Sustainability（環境センター）があり、博物館を併せもつCenter for the Arts（芸術センター）と呼ばれるものを現在作っています。横断的にカリキュラムをつなぎ合わせることで、大学をよりよく紹介できるようにしているわけです。

安東 では次に、The Programs for Financial Independence についてお聞きします。女性にとって重要なプログラムであると思いますが、これは他の女子大学ではあまり持っ

ていないのではないのでしょうか。このようなプログラムを作られた理由をお聞かせください。

Smith このプログラムの履修は強制ではないのですが、学生には取ることを奨励しています。どの位の学生が参加しているかわかりませんが、彼女たちは素晴らしい成果を上げています。

プログラムが導入されたのは15年程前、いやもっと前だったかもしれません。大学の理事の一人にゴールドマン・サックス（Goldman Sachs）の非常に上級の役員である女性がいて、学生の金融リテラシー（金融に関する知識・能力）、金融資料の理解力などについて非常に心配されていました。またアメリカ文化の話になりますが、女性は男性より長生きしますが、金融的・金銭的なことには男性より関わりが少ないのです。ですから、この方は女性の金融教育の重要性を本当に訴えたがっていました。この方自身とゴールドマン・サックス社が支援してくれました。

それだけではなく、私たちの教授陣の中に、イラン出身の Mahnaz Mahdavi という素晴らしい経済学者がおりまして、その方の功績も大きいのです。彼女には非常に鼓舞されるところがあります。自然の成り行きとして、彼女がそのプログラムの責任者となりました。通常の教育課程があるため、このプログラムは短期間のコースとなりましたが、素晴らしいプログラムの中でも一番のものは、“バックパックからアタッシュケースへ（from Backpack to Briefcase）” というもので、大学生の頃から実社会へ学生が出る準備をさせ、退職や信用管理（Managing Credit）などについて教えるコースです。投資のクラブもあります。現在、このクラブでは投資を少額ですが実際に行っており、私たちはこのクラブにもう少し援助する予定です。今行っているのは、環境に関する投資です。このように、このプログラムは女性を教育するための素晴らしい方法ですので、こうしたプログラムを始めたわけです。

安東 同じようなセンターは、ウェルズリー（Wellesley）やブリンマー（Bryn Mawr）のような他の女子大学にもありますか？

Smith 私たちのものが最初です。他の大学にあるかどうかはわかりませんが、よいアイデアはお互いに真似をします。

安東 こうしたプログラムは、女性にとって非常に重要だと思います。

日本では離婚が増え、どうしても女性が子どもを引き取って育てるケースが多いのですが、そうした母子家庭の所得は非常に低く、家族の暮らしは非常に厳しいというのが現状です。女性にとって職業や財政的な知識が非常に重要だということを、社会に出て行く準備期間である大学で教えなければならないと思っています。

Smith それはとても良いことです。これは素晴らしいプログラムです。

7. 留学生の受け入れ

安東 次に留学生についてうかがいます。どの国からの学生が一番多いのですか？

Smith ここ7、8年は、やはり中国が一番です。その前は韓国でした。EUができる17年前に、私はスミスに来ました。EUが誕生する前には、ヨーロッパの国々からかなりの数の学生がやって来ておりました。今でもいくつかのヨーロッパへの留学プログラム(Study Abroad Programs)をもっています。ジュニア(3年生)でヨーロッパに留学して、配偶者をそこで見つけてそのままそこに居ついた卒業生も多くいます。ヨーロッパには、留学したスミスの卒業生の大きなグループがあり、多くの卒業生がいます。

EUが誕生した後、ヨーロッパの大学生で、英語圏に行きたいという学生は、全てとってよほどイギリスに行きました。パキスタンからの学生も多かったのですが、パキスタンで騒乱があってちょっと少なくなりました。今年は、パキスタンからの志願者は増えましたね。インドもかなりの数があります。地理的なことについて聞かれたので、今これ(*Smith College 2016-17 Catalog*)をお見せしたいのですが、ホームページにも留学生の国が掲載されています。

安東 すごいですね、中国は160人もいます。

Smith 日本は8人です。留学生2,500人中の8人です¹²。

安東 学費の問題もあってか、日本からの留学生は少ないですね。

次に、スミスから外国の大学への留学についてお尋ねします。ジュニア学年(3年生)にたくさんの学生が外国に勉強に行くということですが、卒業までの4、5年の間に留学する学生の数や割合はどのくらいでしょうか？

Smith 50%くらいですね。その内の半分以上が1年を通して留学し、残りのほとんどは1学期間行きます。もっと短期間の学生もいます。最近の課題は、1年間留学する学生で人文科学を学ぶ学生が増えていることです。留学先の国では、その国の言葉ができることを条件にしていますので、例えば京都に行く場合は、日本語を話さなければなりません。言語学習では4つのプログラムがあり、スイスのジュネーブ、フランスのパリ、イタリアのフィレンツェ、ドイツのハンブルグに行きます。この4つのプログラムではフランス語、イタリア語、ドイツ語ができる必要があります、全て1年間のプログラムで、長い歴史があります。スミスのパリでの留学プログラムはどのアメリカの大学にもある第二次留学プログラムとしてあるもので、最も長く継続して

¹² *Smith College 2016-17 Catalog*によれば、中国が160名で圧倒的に多く、次に大韓民国28名、インド23名、カナダとフランスが11名、ベトナム9名、イギリス、パキスタン、台湾と日本が8名の順である。(p.25)

続いているものです。

こうしたプログラムは全て第二次世界大戦後に始まった留学プログラムです。これらのプログラムはスミスが全て運営しているものでスミスの教員が行きます。また、学生は世界中の大学と直接交流することができ、間違いなく学生たちは向上します。言葉を学ぶということで、こうした結果が生まれているということは、納得できません。工学や化学や生化学を勉強している場合は、履修課程がもっと厳格なので、難しくなります。学生にはその文化に充分浸ることができるだけの長い期間留学してもらおうという強い伝統が私たちにはありますが、専攻が生化学だとこれが難しくなります。ですから、理工系の学生にも合う留学プログラム、もっと短期間のプログラムを作ろうとしています。

安東 理工系学生はかなり費用がかかるかと思います。かなり財政援助が受けられるのですか？

Smith はい。これもスミスの哲学のひとつです。入学したら、どんなにお金があっても、利用できるものは最大限利用してもらうようにするという事です。非常に大きな基金、私たちの財源を使って、それを平等に行っています。

安東 わかりました。最後の質問です。外国の学生に対する勧誘は、スミスにとって非常に重要な戦略ではないかと思いますが、外国にいる卒業生が面接されるとおっしゃいました。

スミス・カレッジは外国からの留学生数の増加に力を入れていますか。外国の優秀な女子学生を入れることは、大学の質を高める上でも重要だと思いますが、いかがでしょうか？

Smith 私が初めてスミスに来た時、留学生の割合は約6%でした。それを12%に伸ばすことを決めてから、中国からの関心が爆発的に高まっていきました。現在は、アメリカ国内の各州からまんべんなく取るのと同じように世界中どこからでも学生を取りたいと思い、その取り組みも少しは行っています。ですが、現在の15%以上には増やさそうとは思っていませんし、ひとつの国の留学生が圧倒するようにはしたくありません。アメリカにはたくさんの大学があります。中国では教育機会が不足しており、私たちの大学にぜひ来たいという優秀な学生がいますが…。

ですから、これ以上は増やさないと思います。勧誘にはそれなりの時間を使います。外国に出張してリクルートする職員が二人おり、一人はアジア、もう一人はアジア以外の国に行っています。私も学生をリクルートするために海外に出張することがあります。アフリカへの出張にも以前よりお金を使って行っています。アフリカの学生に対しては財政的援助が必要ですが、今のところアフリカでのリクルートは大きな成功を収めています。大学案内（ガイド）を見ると、学生の数が増えている国が分か

ります。実際に、今年の卒業式の講演者はオプラ・ウィンフリー（Oprah Gail Winfrey）です¹³。これは、今年卒業する4年生がアフリカのオプラ・ウィンフリー・アカデミー¹⁴の最初の卒業生の一人だということが大きな理由です。こうして、学生はアメリカの文化の中で勇気をもらうわけです。

安東 そうでなんですね。

Smith 外国の学生を勧誘する戦略は国内の学生とほぼ同じです。今、外国の学生について心配していることは2点あります。政治的な理由で米国に来るという関心が減っているかもしれないということと、ビザが取りにくくなっているのではないかということです。今まさに、学生の入学選抜をしている時で、この二つのことが非常に気にかかっています。

安東 授業料が非常に高いということもありませんか？

Smith そうですね。繰り返しますが、アメリカ国内の多くの大学とは異なり、私たちの大学は、外国からの学生の約40%に対して財政援助を供与しています。この点で、私たちはよくやっていると自覚しています。

安東 英国以外のヨーロッパの学生にとっては、授業料はほとんどかかりませんからね。

Smith そうです。外国から来た学生で、在住していた国がヨーロッパの学生のほとんどは、両親がアメリカ人です。あるいは、アメリカ人の父親が外国で働いていて、学生もアメリカの市民権を持っている場合が多いです。

安東 そうですか。では、所得が低い家族の学生は奨学金をもらえますよね。中位の人たちには、奨学金はあまりもらえないのではないですか？

Smith 少しはもらえますが、多くはないですね。私たちの大学はお金がかかるので、20万ドル（約2,000万円）の収入がある家族でも、二人の子どもが大学に通っている場合は、奨学金をもらえます。余り多くはありませんが、それでもまだ経済的に充分ではなく、私たちの大学（スミス・カレッジ）を選ばないという学生もいるかもしれませんが、私たちは最善を尽くしています。私たちの大学の学生のうち、約20%は非常に所得が低いのですが、米国には連邦のペル給付奨学金（The Federal Pell Grant Program）と呼ばれるプログラムがあります。これは一般的には収入が4万ドル以下

¹³ オプラはアフリカ系アメリカ人で、TV司会者、俳優などとして活躍するとともに、慈善家としても知られており、アメリカでも大きな影響力を持つ女性の一人だとされる。2017年5月21日、彼女はスミスの卒業式において139th Commencement address（卒業式のスピーチ）を行った。（<https://www.smith.edu/news/oprah-winfrey-at-commencement>）

¹⁴ これはオプラが2007年、南アフリカ共和国に設立したOprah Winfrey Leadership Academy for Girlsのことだと思われる。2002年に南アフリカを訪れ、ネルソン・マンデラ（Nelson Mandela）と話した際、貧困をなくするための方策は教育であるという結論に至り、そこから少女のための学校の設立を準備した。（<http://owlag.co.za/academy>）

の、所得が低い家庭に向けたもので、19%の学生がペル給付奨学金を受けています。これはアメリカ国内向けのプログラムなので、ジンバブエやカンボジアといった国から何人かの学生が来ているのですが、彼女らは連邦からの低所得向け奨学金をもらうことができません。面白いことに、ベトナムの学生は以前より中流の所得になる傾向にあります。また言いますが、世界は変化しています。

安東 今、留学生は大変苦勞していても、それは将来への投資ですね。そうした発展途上国から来て一生懸命学んでいる学生は、母国でリーダーになっていくでしょう。

Smith その通りです。

安東 本日は大変ありがとうございました。

付記 本研究は、(2015～2018年度)科学研究費助成事業(基盤研究C)「女子大学の存立意義に関する比較研究：日本・アメリカ・韓国の比較研究」(課題番号15K04327)による研究成果の一部である。



写真 Botanical Garden の一部 (March 13, 2017)